

京都府中小企業製造業の現状 2015

(めっき加工業調査報告書)

平成 27 年 12 月

京都府中小企業技術センター

はじめに

日本経済は、中国経済の減速に伴う株価低迷後、このところ弱含みの動きも見られますが、今後は穏やかに景気回復していくことが期待されています。しかし、府内の中小企業は、エネルギーコストの増大、グローバル化、為替変動リスク、国内市場の低迷、急速な技術革新への対応等、まだまだ大変厳しい経営環境にあります。

京都府中小企業技術センターでは、それら現場実態を把握し、技術支援施策や地域の産業施策検討の基礎資料とするため、ヒアリングアンケート調査を平成 25 年度から始めております。

この調査の要諦は、府内の製造企業に当センター職員がお伺いしてヒアリング調査（帰納的アプローチ）をさせて頂くことにあります。調査対象業界を選定して、当センター職員が一社一社企業現場にお邪魔してヒアリング調査させていただくことが、現場を勉強する機会、企業をより深く知る機会にもなります。

この度、鍍金業界のご協力を得てヒアリング調査をさせていただき、本報告書としてとりまとめました。

平成 25 年度の調査と同様、この報告書作成にあたり、企業訪問ヒアリングアンケート、アンケート結果分析とりまとめ、報告書執筆等々、当センター職員だけで行いました。

まだまだ試みの段階で、統計データ分析の踏込み不足、記述の稚拙さ等、不慣れで至らぬ点が多々あるかと思いますが、企業の皆様、また、関係機関の皆様の産業振興等の基礎資料としてこの「京都府中小企業製造業の現状 2015」をご活用いただければ幸いです。

本書の作成に当たり、貴重なご意見、ご指導を頂戴した企業の皆様、京都府鍍金工業組合様、龍谷大学経済学部松岡教授にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成 27 年 12 月

京都府中小企業技術センター 所長 小林 章一

本文を読む前に

- 本報告書では、工業統計調査の分類で「電気めっき業」および「溶融めっき業」に区分される業種をめっき加工業としている。
ただし、他業種でめっき工程を内製している企業は含んでいない。

- 工業統計調査から引用したデータは、次のとおりである。
 - 全国 …… 全国産業細分類別統計表のデータ
 - 近畿 …… 経済産業局別産業細分類別統計表の近畿経済産業局のデータ
 - 京都 …… 都道府県別産業細分類別統計表の京都のデータ

- 工業統計調査の、電気めっき業と溶融めっき業を加算した数値をめっき加工業の数値として比較している。

- ヒアリング結果の統計的処理は、ヒアリング内容からセンターが独自に分類し、統計処理したものであり、割合の算出式は以下を用いている。
 - ・ 回答があった企業数 ÷ 調査企業数 (16 社) × 100 = 割合 (%)

- 図表 8-2 「調査企業の H25 度分野別売上高」の割合の算出式は以下を用いている。
 - ・ 1 企業の H25 度売上高 × 1 企業の各分野の構成比率 = 1 企業の各分野の売上高 …… ①
 - ・ ①の各分野の調査企業全社分合計 = 調査企業全体の各分野の売上高 …… ②
 - ・ ② ÷ 調査企業全体の売上高 × 100 = 各分野の割合

- 図表 11-2 「従業者数内訳比」の割合の算出式は以下を用いている。
 - ・ 調査企業全社の各担当の合計 × 調査企業全社の従業者数 × 100 = 割合 (%)

- 本報告書を作成するにあたり、参考文献のほか、京都府鍍金工業組合、調査企業、全国鍍金工業組合連合会のホームページを参考にした。

目 次

京都府めっき加工業界の現状	1
1 めっき業の位置づけ	1
(1) 工業統計調査からみるめっき加工業	1
(2) めっき製品の割合	3
2 京都府のめっき加工業の特徴	4
3 ヒアリング結果について	6
○ヒアリング対象企業の選定について	6
○分野別売上高について	6
○売上高規模について	7
○経営状況について	8
○従業者数について	8
○取引先数について	9
○保有しているめっき技術について	9
○生産体制について	10
○自社の強みについて	10
○人材育成について	11
○海外進出について	11
○行政に求める支援策について	12
○今後の経営方針について	12
○謝辞	13
(参考文献)	13
(参考資料) ヒアリング調査事前アンケート票	14

京都府めっき加工業界の現状

今回の調査では、ものづくり基盤技術の一つであるめっき加工技術に焦点を当て、京都府鍍金工業組合の協力を得て、京都府めっき加工業界の現状を明らかにするためにヒアリング調査を行った。

【ヒアリング結果の要旨】

京都府のめっき加工業界では、どの企業も品質や付加価値を重要視している。

調査した中では、自社の強みとして「高品質」と回答したのは 50%、「高付加価値」と回答したのは 13%となり、国内のめっき製品の売りは品質や付加価値であるという声が多かった。また、伝統工芸・神仏具金物のめっきは、それらをめっきする技術を持っていること自体が強みとされており、伝統工芸品の京仏壇・京仏具業界がある京都府ならではの特徴ではないかと思われる。

同じ基準・項目ではないため単純比較することはできないが、全国のめっき製品用途割合では「自動車部品」33%、「一般機械・建設機械部品」15%に対して、調査企業の平成 25 年分野別売上高では、「自動車部品」29%、「一般機械・建設機械部品」26%の順になっている。

このことから京都府のめっき業界は全国のめっき業界よりも一般機械・建設機械産業の売上比重が高く、京都府にある同分野での大手企業に依存する構造になっていると推察される。

そのほか、保有しているめっきの種類や主たる加工製品の割合を見てみると、京都府の企業は多種のめっき、加工製品に対応し、様々な分野から受注していると推察される。

1. めっき業の位置づけ

めっきとは、装飾性、内部保護、機能性向上などを目的として金属製品などの表面に薄膜を形成する表面処理技術の 1 つである。家庭用品、家庭用電気製品、日用品雑貨、自動車等の輸送機器、産業機械をはじめ、精密機器、コンピュータや通信機等の電子部品、宇宙機器など様々な分野で幅広い製品にめっき技術が活用されている。

(1) 工業統計調査からみるめっき加工業

平成 25 年工業統計調査より、全国、近畿、京都府のそれぞれについて、製造業およびめっき加工業の規模を図表 1 にまとめた。めっき加工業は全国、近畿、京都いずれにおいても製造業全体に占める割合は、事業所数などの点で 1%未満の規模であるということがわかる。

図表 1 めっき加工業の規模

		事業所数	比率	従業者数 (人)	比率	製造品出荷額等 (万円)	比率	付加価値額 (万円)	比率
全国	製造業	208,029	100.00%	7,402,984	100.00%	29,209,212,983	100.00%	9,014,888,541	100.00%
	めっき加工業※	1,355	0.65%	33,874	0.46%	51,179,412	0.18%	26,222,114	0.29%
	溶融めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)	165	0.08%	6,002	0.08%	11,127,704	0.04%	5,574,869	0.06%
	電気めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)	1,190	0.57%	27,872	0.38%	40,051,708	0.14%	20,647,245	0.23%
近畿	製造業	40,945	100.00%	1,268,451	100.00%	4,769,767,963	100.00%	1,576,838,862	100.00%
	めっき加工業※	297	0.73%	6,159	0.49%	1,749,166	注1	886,640	注1
	溶融めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)	38	0.09%	1,115	0.09%	1,749,166	0.04%	886,640	0.06%
	電気めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)	259	0.63%	5,044	0.40%	X	-	X	-
京都	製造業	4,500	100.00%	135,064	100.00%	456,051,616	100.00%	171,314,792	100.00%
	めっき加工業※	22	0.49%	519	0.38%	579,011	注2	225,474	注2
	溶融めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)	1	0.02%	15	0.01%	X	-	X	-
	電気めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)	21	0.47%	504	0.37%	579,011	0.13%	225,474	0.13%

平成25年 工業統計調査(経済産業省)より

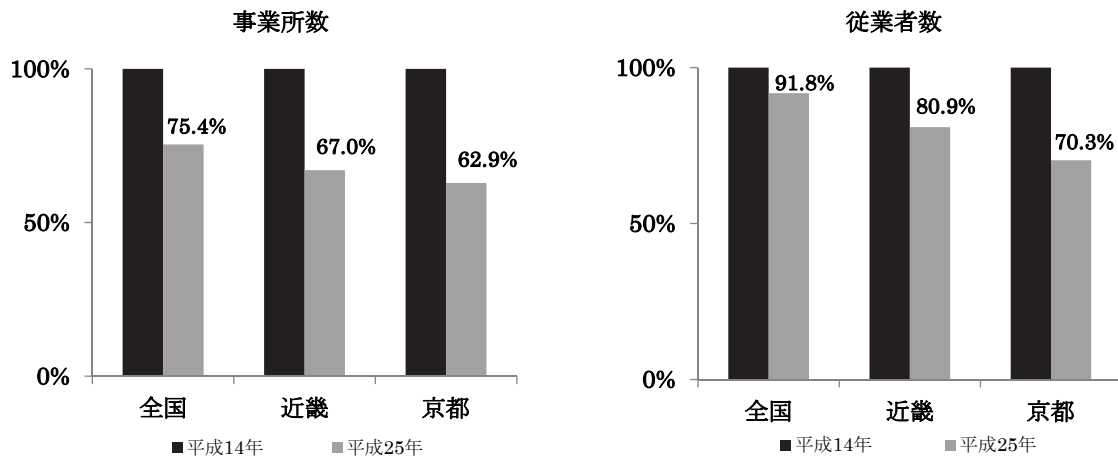
※めっき加工業は、「溶融めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)」と「電気めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)」を独自に合計したもの

注1: 電気めっき業を含まない

注2: 溶融めっき業を含まない

平成14年と平成25年の事業所数及び従業者数の変化を比較したものが図表2である。平成14年の数値を100%とし、平成25年の割合を算出した。事業所数、従業者数ともに平成14年から減少していることがわかる。

図表 2 めっき加工業の規模の遷移



平成14年、平成25年 工業統計調査(経済産業省)より

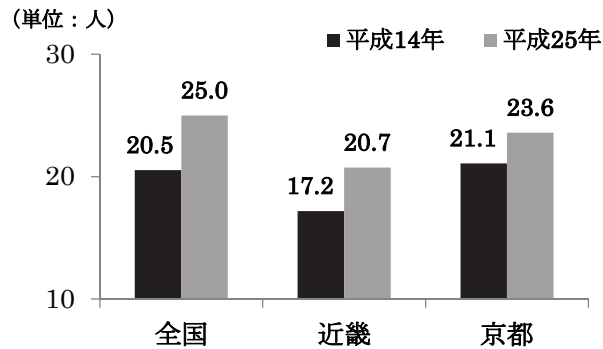
※グラフ中の割合の数値は、「溶融めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)」と「電気めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)」を合計した数値より算出した

平成14年、平成25年 工業統計調査(経済産業省)より

※グラフ中の割合の数値は、「溶融めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)」と「電気めっき業(表面処理鋼材製造業を除く)」を合計した数値より算出した

一方、1事業所あたりの従業者数を算出しグラフにしたところ、図表3のようになった。平成14年よりも1事業所あたりの従業者数が増加している。

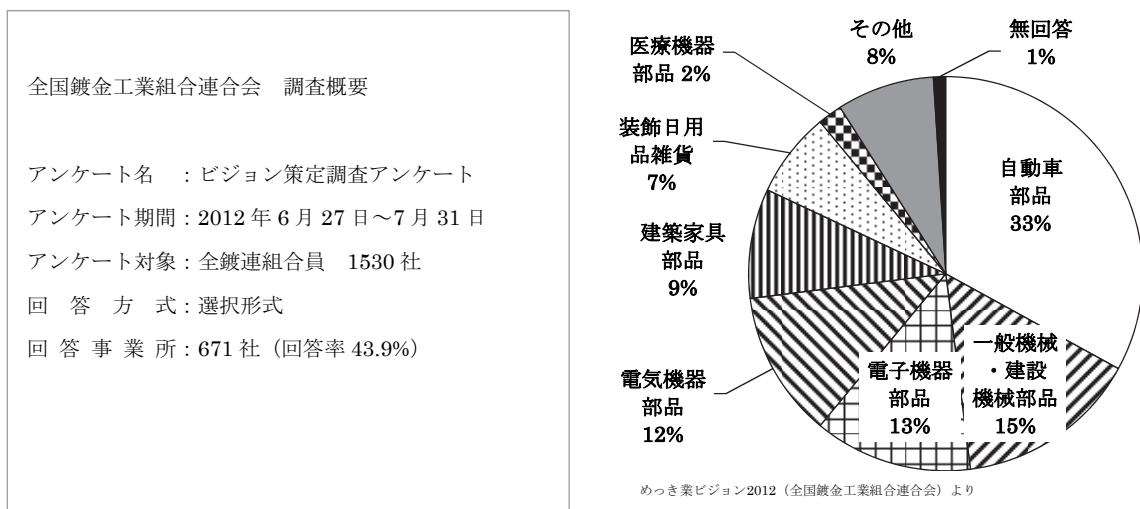
図表3 1事業所あたりの従業者数の遷移



(2) めっき製品の割合 (めっき業ビジョン2012より)

全国鍍金工業組合連合会が平成24年(2012年)に行った「めっき業ビジョン2012」の会員企業アンケート調査では、売上の1位を占めるめっき製品の用途について図表4のような結果を得ている。上から順に「自動車部品」「一般機械・建設機械部品」「電子機器部品」「電気機器部品」「建築家具部品」となっている。巨大産業である自動車部品が3分の1を占めているものの、他の様々な分野でも幅広い製品に活用されていることがわかる。

図表4 めっき製品用途割合



2. 京都府のめっき加工業の特徴

めっき加工業の企業が保有しているめっきの種類や主たる加工製品について、全国鍍金工業組合連合会がまとめた「2015年版 全国めっき工場総覧」より、図表5にまとめた。

図表5では、全国と京都府を比較するため、当該項目毎の回答比率を算出した。

図表5 保有しているめっきの種類別および主たる加工製品別企業数

めっきの種類					主たる加工製品				
	企業数 (全国)	回答 比率	企業数 (京都府)	回答 比率		企業数 (全国)	回答 比率	企業数 (京都府)	回答 比率
総企業数	1,419	100.0%	34	100.0%	総企業数	1,419	100.0%	34	100.0%
硬質クロム	279	19.7%	7	20.6%	自動車・車輻部品	649	45.7%	16	47.1%
クロム(6価)	519	36.6%	13	38.2%	電気機器部品	496	35.0%	21	61.8%
クロム(3価)	58	4.1%	2	5.9%	電子機器部品	292	20.6%	16	47.1%
ニッケル	833	58.7%	22	64.7%	通信機器部品	166	11.7%	7	20.6%
亜鉛	650	45.8%	16	47.1%	一般・産業機械部品	493	34.7%	17	50.0%
亜鉛合金	87	6.1%	2	5.9%	精密機械部品	303	21.4%	16	47.1%
銅	494	34.8%	16	47.1%	医療機器部品	140	9.9%	12	35.3%
スズ	269	19.0%	8	23.5%	航空・宇宙機器部品	52	3.7%	1	2.9%
鉛フリーはんだ	48	3.4%		0.0%	光学機器部品	98	6.9%	10	29.4%
半田	52	3.7%		0.0%	農機具部品	74	5.2%	2	5.9%
カドミウム	4	0.3%		0.0%	事務・OA機器部品	173	12.2%	6	17.6%
金	345	24.3%	14	41.2%	建築機器金物	305	21.5%	12	35.3%
銀	299	21.1%	14	41.2%	ガス・水洗器具	90	6.3%	4	11.8%
その他貴金属	102	7.2%	4	11.8%	装身具・めがね類	115	8.1%	5	14.7%
金色系のめっき	95	6.7%	3	8.8%	照明・ディスプレイ用品	133	9.4%	9	26.5%
黒色系のめっき	236	16.6%	15	44.1%	日用品雑貨・玩具	187	13.2%	1	2.9%
クロム色のめっき	61	4.3%	4	11.8%	洋食器・厨房用品	38	2.7%	2	5.9%
ニッケル代替	20	1.4%	1	2.9%	遊具・スポーツ用品	67	4.7%	1	2.9%
鉄系のめっき	15	1.1%		0.0%	楽器	34	2.4%	2	5.9%
金属着色	89	6.3%	5	14.7%	神仏具	36	2.5%	8	23.5%
古美色仕上げ	49	3.5%	5	14.7%	その他	41	2.9%	3	8.8%
化成処理	212	14.9%	8	23.5%	ロールシャフト類	125	8.8%	5	14.7%
複合	40	2.8%	3	8.8%	ネジ・ボルト・ナット類	206	14.5%	12	35.3%
無電解ニッケル	347	24.5%	19	55.9%	バネ・スプリング・線材	111	7.8%	10	29.4%
無電解銅	23	1.6%	2	5.9%	微小・微細部品	56	3.9%	9	26.5%
無電解スズ	15	1.1%	1	2.9%	大型・長尺部品	74	5.2%	6	17.6%
無電解金	37	2.6%	2	5.9%	プラスチックへのめっき	38	2.7%	2	5.9%
アルマイト	141	9.9%	6	17.6%	アルミニウムへのめっき	106	7.5%	9	26.5%
溶融亜鉛	17	1.2%	1	2.9%	チタン素材の表面処理	17	1.2%	2	5.9%
電鍍	20	1.4%	3	8.8%	セラミックスへのめっき	27	1.9%	2	5.9%
酸洗い	120	8.5%	10	29.4%	その他非金属へのめっき	31	2.2%	4	11.8%
電解研磨	77	5.4%	4	11.8%	プリント基板	39	2.7%		0.0%
化学研磨	89	6.3%	5	14.7%	延べ企業数	4,812		232	
研磨加工	145	10.2%	13	38.2%	延べ企業数/実企業数	3.4		6.8	
PVD・CVD	10	0.7%	1	2.9%					
アルミ蒸着	9	0.6%		0.0%					
電着塗装	44	3.1%	1	2.9%					
塗装	58	4.1%	2	5.9%					
溶射	7	0.5%		0.0%					
延べ企業数	6,015		232						
延べ企業数/実企業数	4.2		6.8						

2015年版「全国めっき工場総覧」(全国鍍金工業組合連合会)より

図表 5 の数値を用いて保有するめっきの種類総合計および主たる加工製品総合計を実企業数で割り戻し、1 企業あたりのめっきの種類、主たる加工製品を算出したものが図表 6 である。京都府の企業は全国の企業と比較して 1 企業が保有するめっきの種類および主たる加工製品の数が多。

図表 6 1 企業あたりの保有しているめっきの種類および主たる加工製品

めっきの種類			主たる加工製品		
	全国	京都府		全国	京都府
実企業数①	1,419	34	実企業数③	1,419	34
延べ企業数②	6,015	232	延べ企業数④	4,812	232
1企業あたりの保有数②÷①	4.24	6.82	1企業あたりの保有数④÷③	3.39	6.82

また、図表 5 より、めっきの種類および主たる加工製品それぞれの上位 5 位を図表 7 にまとめた。図表 7 の主たる加工製品の順位を見ると、全国では「自動車・車輛部品」「電気機器部品」「一般・産業機械部品」の順であるが、京都府では「電気機器部品」「一般・産業機械部品」「自動車・車輛部品」と順位が入れ替わっており、電気機器部品等に関わる企業割合が多い。自動車への依存が低く、京都府内の大手企業に依存している傾向が伺える。

図表 7 保有しているめっきの種類および主たる加工製品の順位

めっきの種類 上位5位					主たる加工製品 上位5位				
	全国	比率	京都府	比率		全国	比率	京都府	比率
1位	ニッケル	58.7%	ニッケル	64.7%	1位	自動車・車輛部品	45.7%	電気機器部品	61.8%
2位	亜鉛	45.8%	無電解ニッケル	55.9%	2位	電気機器部品	35.0%	一般・産業機械部品	50.0%
3位	クロム(6価)	36.6%	亜鉛	47.1%	3位	一般・産業機械部品	34.7%	自動車・車輛部品	47.1%
4位	銅	34.8%	銅	47.1%	4位	建築機器金物	21.5%	精密機械部品	47.1%
5位	無電解ニッケル	24.5%	黒色系のめっき	44.1%	5位	精密機械部品	21.4%	電子機器部品	47.1%

図表 6、7 より、京都府のめっき加工業の多くは、多種のめっきを保有し、電気機器部品や一般・産業機械部品を中心とした様々な加工製品に対応していることがわかり、幅広い分野から受注していると推察される。

3. ヒアリング結果について

ヒアリング調査の概要

【目的】めっき加工技術を保有する企業の経営環境、技術の動向、同業界に属する企業の事業展開について把握し、技術支援・施策の基礎資料とする。

【調査期間】平成26年12月～平成27年5月

【訪問企業】16社

【調査事項】①現在の経営状況について
②技術の強みについて
③今後の展開について

(参考)

【名称】京都府鍍金工業組合

【所在地】〒601-8181 京都市南区上烏羽堀子町3-4 京都鍍金会館内

【設立】昭和37年(1962年)7月

【組合員数】34社

【概要】・工場排水分析、作業環境測定の実施
・技術講習会、経営研修等での教育指導や新情報の収集・提供等

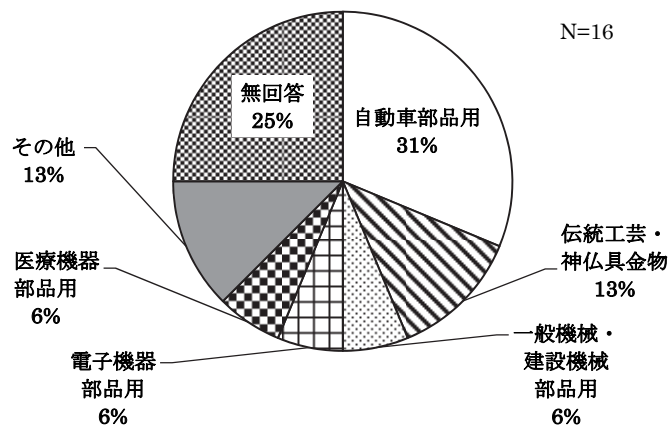
○ヒアリング対象企業の選定について

京都府鍍金工業組合の会員企業34社の中で、調査の承諾が得られた16社に対してヒアリングを実施した。

○分野別売上高について

図表8-1は調査企業における売上の1位を占める製品分野を示したグラフである。上から順に「自動車部品用」「伝統工芸・神仏具金物」「一般機械・建設機械部品用」「電子機器部品用」「医療機器部品用」となっており、「伝統工芸・神仏具金物」が2位となっている。

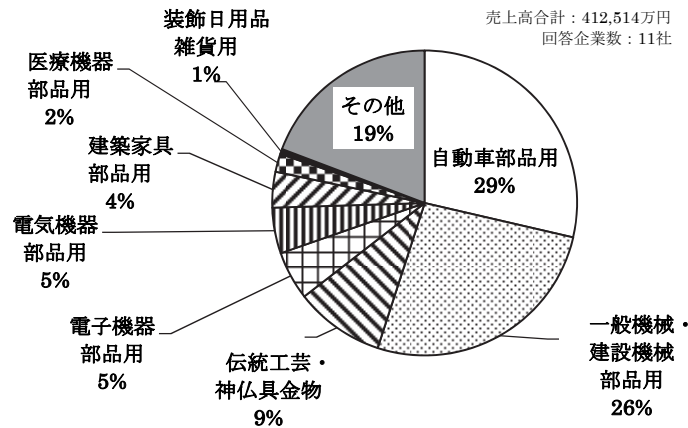
図表8-1 もっとも多い売上高分野（企業数割合）



一方、図表 8-2 は調査企業全体の平成 25 年売上高に対する各分野の売上高割合を示したグラフである。上から順に「自動車部品用」「一般機械・建設機械部品用」「伝統工芸・神仏具金物」となっている。

図表 8-1 と比較すると、売上高ベースで見ると「一般機械・建設機械部品用」のボリュームが大きく、「自動車部品用」と同等の売上高規模であることがわかる。

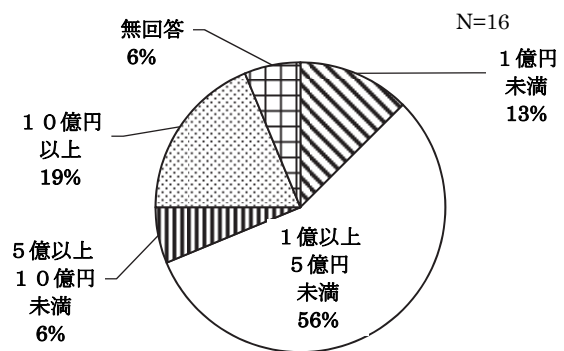
図表 8-2 調査企業の平成 25 年分野別売上高



○売上高規模について

調査企業の売上高規模をみると、「1 億円未満」が 13%、「1 億円以上～5 億円未満」が 56%、「5 億円以上～10 億円未満」が 6%、「10 億円以上」が 19%であった(図表 9)。

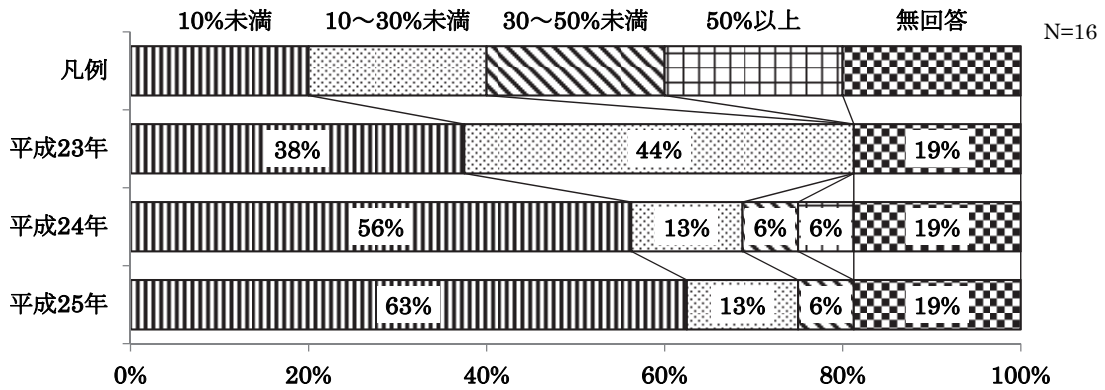
図表 9 調査企業の平成 25 年売上高 (企業数割合)



○経営状況について

平成23年(2011年)から平成25年(2013年)の売上高経常利益率については、「10～30%未満」の企業が44%から13%に減少している。一方、「10%未満」の企業が38%から63%と大幅に増加している。また、平成25年度では「50%以上」の企業は無かった(図表10)。

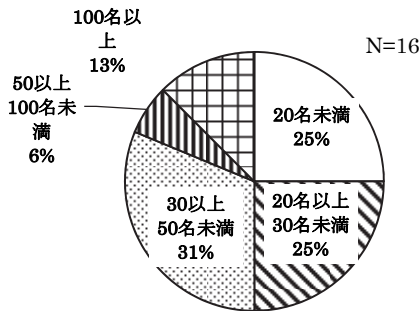
図表10 平成23年から平成25年の売上高経常利益率の状況(企業数割合)



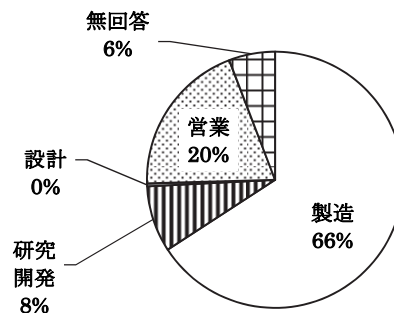
○従業員数について

調査企業の従業員数は、「30名以上50名未満」が31%で一番多く、次いで、「20名未満」と「20名以上30名未満」がそれぞれ25%あり、従業員が50名未満の企業が4分の3以上を占めている(図表11-1)。従業員の企業における担当分野を聞いたところ、ほぼ全ての企業で製造に携わる従業員の割合が一番大きかった。調査企業全体でみると、製造に携わる従業員の割合は全従業員数の66%を占めている(図11-2)。

図表11-1 従業員数(企業数割合)



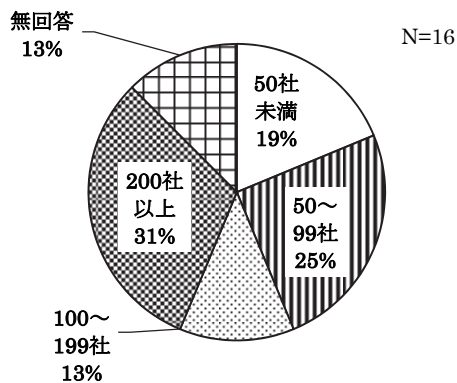
図表11-2 従業員数内訳比



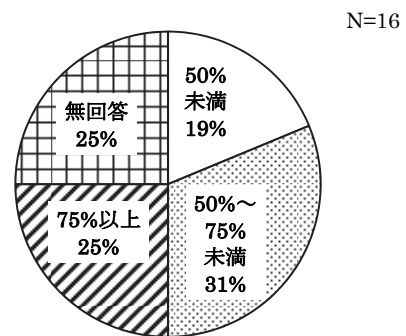
○取引先数について

調査企業の取引先数は、「50社～99社」が25%、「200社以上」が31%となっており、調査企業の約7割が50社以上と取引している（図表12-1）。また取引先企業の府内・府外率を算出したところ、府内率が「50～75%未満」の企業が31%であり、府内率が「50%未満」の企業は19%であった。これらから、調査企業は、府内の企業と主に取引していることが伺える（図表12-2）。

図表 12-1 取引先数（企業数割合）



図表 12-2 取引先企業の府内比率（企業数割合）

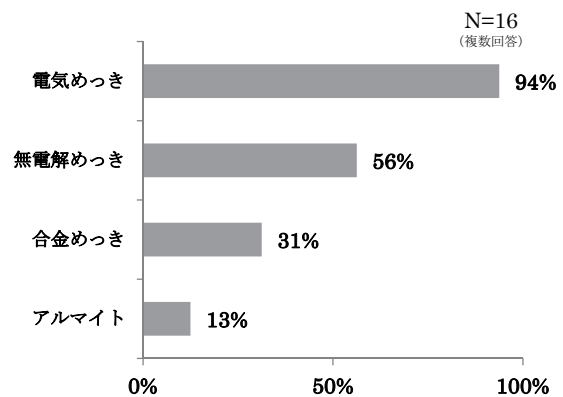


○保有しているめっき技術について

調査企業の保有しているめっき技術を聞いたところ、「電気めっき」を保有している企業の中では、亜鉛めっき、ニッケルめっき、銀めっきを行っている企業が多かった。「電気めっき」以外では、「無電解めっき」を行っている企業が56%、「合金めっき※」を行っている企業が31%、「アルマイト※」を行っている企業が13%であった（図表13）。この他、めっき以外の表面処理技術を保有している企業もあった。

保有しているめっきの種類の数については企業によって異なり、多品種対応をしている企業、特殊又は少品種のめっきに特化した企業に二分される。

図表 13 保有しているめっき技術（企業数割合）



※合金めっき：2種類以上の金属が同時に析出するめっき。

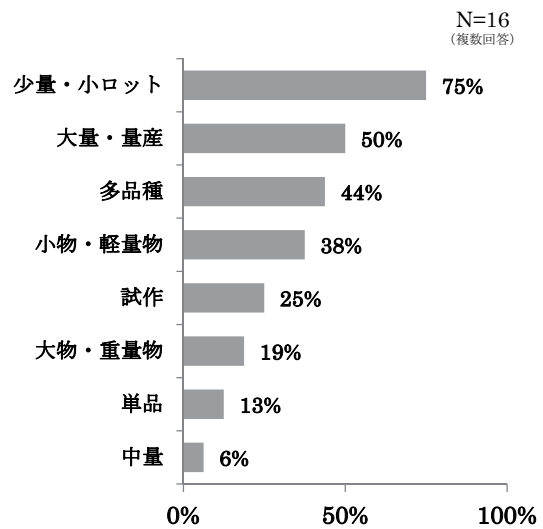
※アルマイト：アルミニウムの表面に酸化皮膜を作る処理。耐食性および耐摩耗性の向上等を目的に行われる。

○生産体制について

75%が「少量・小ロット」、50%が「大量・量産」と回答された（図表 14）。内訳を確認したところ、両方の生産体制をとっている企業は 5 社、「大量・量産」かつ「多品種」でない企業は 1 社あり、少品種のものを大量に生産している企業はほとんどないと言える。

図表 12-1、図表 13、図表 14 から調査企業は、多くの企業と取引を行うため、取引先の要望に応じることができるようめっき技術や生産体制を整え、柔軟に対応し、現在まで生き残ってきたと推察される。

図表 14 生産体制（企業数割合）



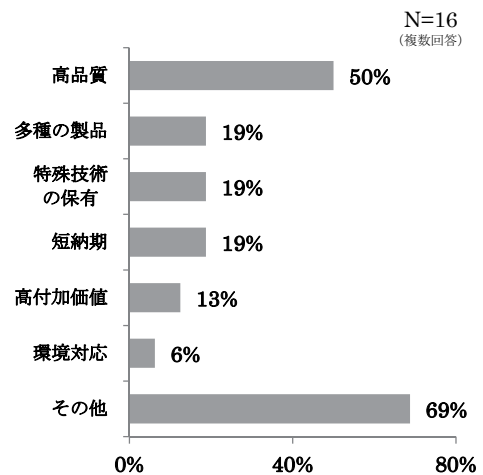
○自社の強みについて

自社の強みについてヒアリング回答では、「高品質」「多種の製品」「特殊技術の保有」「短納期」があった（図表 15-1）。また、その他の強みとして、伝統工芸品や仏具等へのめっき（装飾めっき）技術や、顧客のニーズに応えるということを強みとしている企業があった。

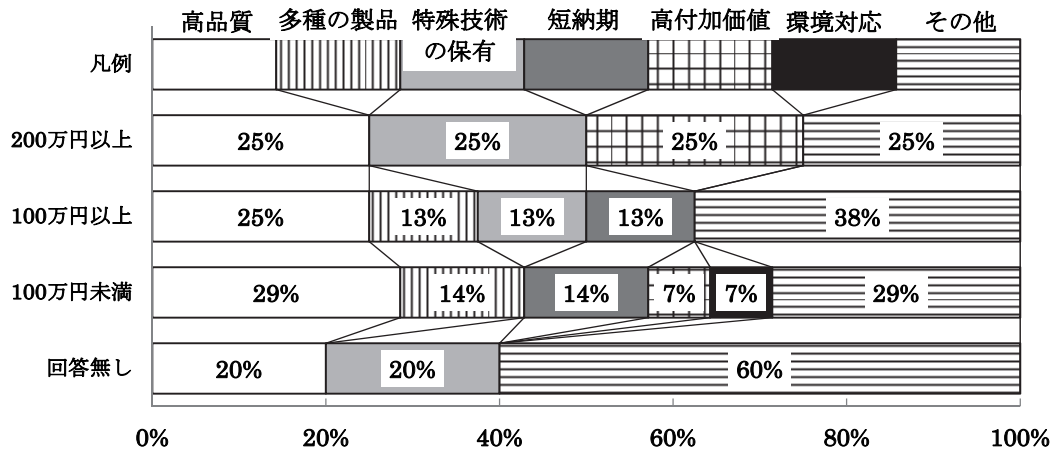
製造においていくつかの強みを持ち、特に品質には自信を持っているように感じた。品質を保つために、企業独自のノウハウによる研磨や脱脂といった前処理工程や、薬品の管理等工夫しており、コスト競争ではなく品質で受注を得ようとしている企業が多い。

また、従業員 1 人当たりの経常利益別に自社の強みをみたところ、1 人当たりの経常利益が 200 万円以上の企業は、「特殊技術の保有」や「高付加価値」を強みとしている割合が多く、従業員 1 人当たりの経常利益が 200 万円未満の企業は、「短納期」を強みとしている割合が多かった（図表 15-2）。

図表 15-1 自社の強み（企業数割合）



図表 15-2 自社の強み（従業員 1 人当たりの経常利益別）



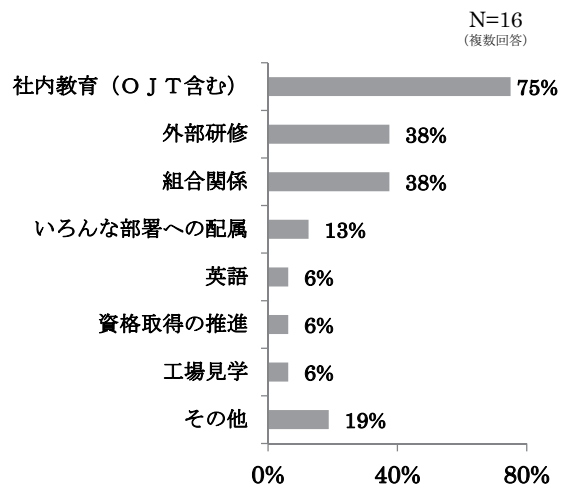
○人材育成について

人材育成については、調査企業の75%がOJT（On the Job Training）を基本として、自社内での技術者育成をしている。一方「外部研修」、「組合関係^{※1}」を利用して人材育成を実施しているのはそれぞれ38%であった（図表16）。

京都府鍍金工業組合では、電気めっき技能検定を開催しており、積極的に活用されている企業もあった。

従業員の中で意欲がある人は資格取得のほか、知識向上などにも積極的であり、そのような人材を求めている。

図表 16 人材育成（企業数割合）

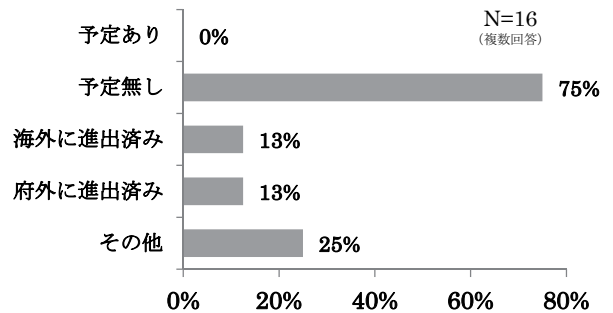


※1 京都府鍍金工業組合が主催する電気めっき技能検定や同組合の青年部である鍍秀会および大阪府鍍金工業組合

○海外進出について

海外進出の予定がない企業がほとんどであったが、すでに東南アジアに工場を有している企業は1割強（13%）であった（図表17）。

図表 17 海外進出（企業数割合）



○行政に求める支援策について

行政に求める支援策の1位は補助金や助成金などの「経済的支援」50%であった(図表18)。

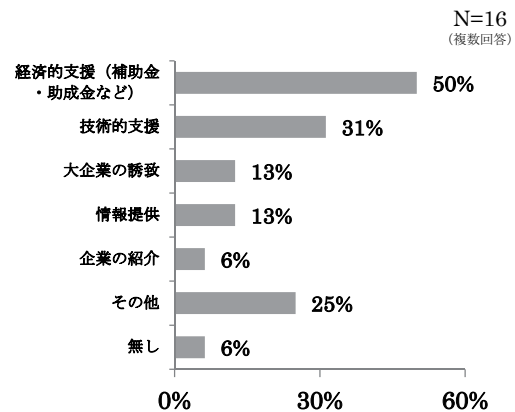
補助金や助成金等の申請および交付決定後に提出する書類については、「量が多い」「複雑」「簡略して欲しい」「記入例が欲しい」との意見があった。類似の要望は、平成25年度に行った金属プレス業界へのヒアリング調査でもあり、どの業界・企業も思っている課題であると推察される。

その他の中では、「各分野に精通した人」「少し伝えたら話が通じる人が増えて欲しい」といった職員に関する要望があり、当センターの職員の資質向上・後継育成が課題であると感じた。

また、業界として規制基準の厳格化に伴う環境改善への対応に関連する支援の要望もあった。

京都府の産業施策全般に対する意見としては「世界的に有名な企業の誘致」や「京都府だけでなく、近畿の府県や国を挙げて新しい産業を生み出すような政策をして欲しい」などがあった。

図表18 行政に求める支援策
(企業数割合)



○今後の経営方針について

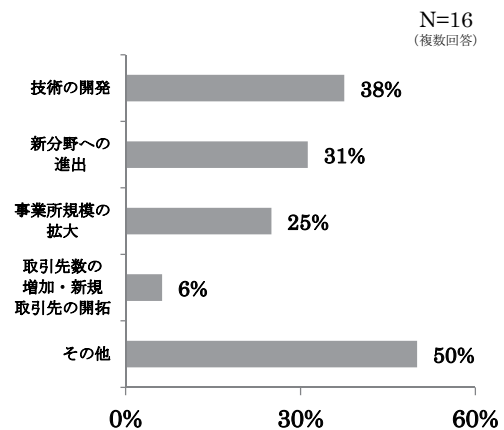
今後の展開について伺ったところ、38%が「技術の開発」、31%が「新分野への進出」、25%が「事業所規模の拡大」と回答された(図表19)。

「技術の開発」や「新分野への進出」との回答では、こだわりの技術を育成したいという企業や、現在保有している技術を活かした新分野への進出がすでに決まっている企業もあった。

「事業所規模の拡大」では、府内で工場の増設や従業員の増員などを予定されていた。

「その他」の中にはホームページを活用しての受注獲得を目指している等があった。

図表19 今後の展開(企業数割合)



○謝辞

本調査を進めるにあたり、多大なご協力を得た京都府鍍金工業組合の事務局、参加企業の皆様に深く感謝致します。

(参考文献)

- ・平成 14 年および平成 25 年工業統計調査、経済産業省
- ・めっき業ビジョン 2012、全国鍍金工業組合連合会
- ・2015 年版「全国めっき工場総覧」、全国鍍金工業組合連合会
- ・京都府産業の展望 2005、京都府中小企業総合センター

参考資料



ヒアリング調査事前アンケート票

この調査票は、ヒアリング調査に先立ってあらかじめご記入ください。
ヒアリング調査当日、お伺いした職員にお渡しください。

※貴社の都合上、記入できない項目等については空欄で構いませんが、可能な限りご記入をお願いします。

- 1 会社名 ()
- 2 主要取引先名 ()
取引先数 (_____ 社：内訳：京都府内 _____ 社、府外： _____ 社、海外： _____ 社)
- 3 従業員数 (_____ 人) 平均年齢 (_____ 歳)
(内訳：研究・開発： _____ 人、設計： _____ 人、製造： _____ 人、営業等： _____ 人)

4 経営状況 単位：万円

	売上高	経常利益	備 考
2013年 (H25)	万円	万円	
2012年 (H24)	万円	万円	
2011年 (H23)	万円	万円	

	2013年 (H25) 売上高構成比	2004年 (H16) 売上高構成比
自動車部品用	%	%
一般機械・建設機械部 品用	%	%
電子機器部品用	%	%
電気機器部品用	%	%
建築家具部品用	%	%
装飾日用品雑貨用	%	%
医療機器部品用	%	%
伝統工芸・神仏具金物	%	%
その他用	%	%

5 海外進出

進出年 (予定)	国名	従業員数	売上に占める割合

ご記入いただいた内容については、調査報告書作成目的以外には使用しません。

京都府中小企業製造業の現状2015

(めっき加工業調査報告書)

平成27年12月

京都府中小企業技術センター

住 所 〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134
(七本松通五条下ル 京都リサーチパーク内)

電 話 075-315-2811

F A X 075-315-1551

U R L <http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/>

お問い合わせ

京都府産業支援センター

URL : <http://kyoto-isc.jp/>

■総合相談窓口 ■TEL 075-315-8660

技術のことなら

京都府中小企業技術センター

<本 所>

〒600-8813

京都市下京区中堂寺南町134

(七本松通五条下ル 京都リサーチパーク内)

総務課 TEL 075-315-2811 FAX 075-315-1551

企画連携課 TEL 075-315-8635 FAX 075-315-9497

基盤技術課 TEL 075-315-8633 //

応用技術課 TEL 075-315-8634 //

・URL : <http://www.mtc.pref.kyoto.lg.jp/>

・e-mail : daihyo@mtc.pref.kyoto.lg.jp

<中丹技術支援室>

〒623-0011

京都府綾部市青野町西馬場下38-1

北部産業技術支援センター・綾部内

TEL 0773-43-4340 FAX 0773-43-4341

<けいはんな分室>

〒619-0294

関西文化学術研究都市

(京都府 精華・西木津地区)

木津川市木津川台9丁目6/

相楽郡精華町精華台7丁目5

けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)内

TEL 0774-95-5027 FAX 0774-98-2202

経営・創業・マーケティングのことなら

公益財団法人 京都産業21

・TEL : 075-315-9234

・URL : <http://www.ki21.jp>

・e-mail : office@ki21.jp

知的財産のことなら

京都府知的財産総合サポートセンター

・TEL : 075-315-8686

・URL : <http://www4.ocn.ne.jp/~khat8686/>

・e-mail : hatsume@ninus.ocn.ne.jp

交通のご案内

◆JRをご利用の場合

丹波口駅から西へ徒歩 5分

◆市バスをご利用の場合

・阪急大宮駅から 32 系統「京都外大前」行き

・阪急西院駅から 75 系統「京都駅」行き

・京阪清水五条駅から 80 系統「京都外大前」行き

上記の市バスで「京都リサーチパーク前」下車

七本松通を南へ 200m 東側

◆地下駐車場

入庫後 **20分無料**

昼間(08:00~20:00)100円/20分

夜間(20:00~08:00)100円/60分

当日最大 1,800円

土日祝 当日最大 1,300円

※深夜0時以降 通常料金加算

